

寒くなってきました。乳牛は寒さに強いとされていますが、より高い生産性を維持するためには、やはり寒冷対策が必要です。まだ冬将軍到来というわけではありませんが、今のうちに寒冷対策が充分かどうかチェックしておきましょう！

【1 標準乳量】

牛群検定成績表の1枚目(牛群成績)の標準乳量を見て下さい。昨年の冬季の標準乳量が平均からみて下がっていませんか？もし下がってれば、それは昨年の冬季の寒冷対策が不十分であったことを示しています。同じことを繰り返さないようにしましょう。

12月の冬至以降から4月・5月ごろの夏至前までは乳量がドンドン伸びる時期です。泌乳量の高い牛ほど耐寒性も高いと言われているので、標準乳量だけでなく実乳量もあわせてチェックしましょう。

【2 冬季の寒冷対策】

①分 娩

羊水で濡れた子牛は急速に体温を失います。清潔なバスタオル等で速やかに拭き取ることも必要です。

②子 牛

ルーメンが未発達な子牛はルーメンの発酵熱を得られないため、成牛と比べ著しく寒さに弱く、寒冷対策が必要です。

ウォーマー(ジャケット)などの利用も効果的です。カーフハッチ利用の場合は風向きに注意します。

③換 気

冬季も換気は必要です。換気が不十分だとホコリやアンモニア濃度が高まり、肺炎などの呼吸器系の疾病を誘発させます。また、子牛の場合は逆にすきま風が直接あたっていないかチェックします。

④敷料の乾燥

糞尿で濡れた敷料は牛の体温を奪うばかりでなく、凍結による横転など思わぬ事故を招きます。敷料はこまめに交換しましょう。鍍などはもってのほかです。

⑤十分な粗飼料

通常でも粗飼料は大切ですが、寒冷が厳しい場合はルーメンの発酵熱により緩和することが出来ます。

⑥飲 水

できれば給水を暖めてやると、飲水量が増加し耐寒性を高めます。もちろん、凍結には十分に注意しましょう。